

より大きく、美しく、楽しい映像を提供するため 大型ビジョンの更新・増設を行いました

開業から14年間、札幌ドームのイベントを支えてきた大型ビジョンから、より大きく、美しく、楽しい映像を実現できる新ビジョンへ。2015年のプロスポーツシーズン開幕に向け、2014年11月から新ビジョンの更新・増設工事を開始し、2015年2月に竣工、3月のプロ野球オープン戦から稼動しています。導入に向けて仕様などを検討する際には、お客さまの声も反映させていただきました。



大型ビジョンは、これまでの外野ライト側とバックネット側上部のサブスコアボードに加えて、外野レフト側にも新設。大型ビジョンとサブスコアボードの総面積は従来の約2.9倍になり、計3面を活用した情報提供や演出、色鮮やかな映像などをお客さまにお楽しみいただけるようになりました。



鮮明な表示を実現する「黒色パッケージ」のLED

映像の黒色部分がより黒く見えるため、高コントラストで色鮮やかな表示が可能になる黒色パッケージのLEDを採用。この黒色パッケージのLEDは三菱電機が独自開発したもので、プロ野球の本拠地球場およびプロサッカーのホームスタジアムでは世界初の導入となります。

高精細な制御解像度でフルハイビジョン表示も可能

表示パネルは「制御解像度8mm」「走査線・縦1,080本×横4,000本」で、フルハイビジョン表示にも対応可能。フルハイビジョン対応はプロ野球12球団の本拠地球場では国内初、サッカーJリーグのホームスタジアムでは埼玉スタジアム2002と同等で国内最高性能です。

どの席からでも映像を楽しめる視認角度になりました

視認角度（大型ビジョンを見ることが出来る範囲）は、従来に比べて水平方向で30度広くなり、画面を見る角度による色合いの変化が小さくなったほか、外野レフト側にも増設されたため、ほぼすべての席で映像演出を楽しんでいたできるようになりました。

■【大型ビジョン】更新後



■【サブスコアボード】更新後



■従来



■インタビュー 大型ビジョンの更新を終えて

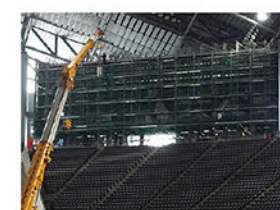
新ビジョンをお客さまにとってさらに満足いただける仕様に近づけるため、引き続き検討を重ねていきます

大型ビジョンの更新・増設の経緯についてお聞かせください。

村上 2001年の開業時から使用してきた大型ビジョンは、2012年頃から劣化が目立つようになり、また、メーカーから部品の供給が難しくなるという話もあったため、更新を検討し始めました。さらに、ほかのスタジアムは更新が進んでおり、もっと情報量がほしい、きれいな映像を見たいという声はお客さまからも寄せられていたため、仕様などを検討する際には、会場でしか味わえない臨場感や迫力をもっと求めていかなければならないと考えました。そこで、国内外のスタジアムを参考にするため視察しましたが、特にアメリカのメジャーリーグ球場の音と映像の演出が素晴らしく、球場の一体感や迫力が印象的でした。このような演出がお客さまを飽きさせないことにつながると感じ、映像の大切さを改めて実感しました。札幌ドームでもそうしたことができないかと、各メーカーにヒアリングし、どんな仕様が現実的に可能なのかなどの調査をしたうえでコンペを実施しました。その結果、大型ビジョンのLED表示に大きな特徴があり、フルハイビジョンのテレビと同じ画質を出せるうえ、メンテナンスなども安心できる三菱電機さまに決定しました。また、当社は主催者さまに施設をお貸しする立場ですから、北海道日本ハムファイターズさま、コンサドーレ札幌さまとも打ち合わせを行い、それぞれのご要望も仕様に反映させました。

2014年11月からの工期中の苦労や完成時の感想をお聞かせください。

村上 イベントと共存させて進める必要があり、特に12月はコンサートが3本も立て続けにあったため、その合間に工事をを行い、工事現場のすぐ目の前にお客さまを安全に迎え入れなければならないということがありました。コンサートでは見映えにも配慮する必要が



あるため、工事箇所には特別に黒い養生シートを使ってもらいました。イベントとの共存のため、想像以上にいろいろな社内調整も必要でした。3月のプロ野球のオープン戦までとにかく完成させなければならず、私より現場の方たちが苦労されたと思います。イベントが無事に開催され、工事も予定通り進行でき、ほっとしました。新ビジョンの映像を初めて見た時は、図面上で想像していた以上の迫力で、感激しました。視認角度が広いので、アリーナ、スタンド席、ビジョンの下方などいろいろな場所から、見やすさを確認しました。

新ビジョンの魅力と課題は？

村上 情報量が増え、よりコアなお客さまにも満足していただけますし、演出面の幅は広がったと思います。ただ、2面にしたこと顔で動かさなければ両方を見られないなど、お客さまからのご意見やご要望もあり、皆さまに満足していただける仕様に近づけていくために、さらに検討が必要だと思っています。ほっとしたのはつかの間で、まだまだ課題がありますし、この業務は今も進行形で動いています。将来的には、レフト・ライトそれぞれのビジョンをつなげるような一体感のある演出も可能にしたいと考えていますが、いろいろな課題や懸念事項も想定されるため、それら一つひとつクリアし、実現可能なものを検討していきたいと思っています。お客さまからいろいろな声が寄せられるのは、期待が大きいからこそですし、まだまだ発展途上なので、今後を楽しみにしていただければと思います。



施設部 設備課 主任 村上 拓也

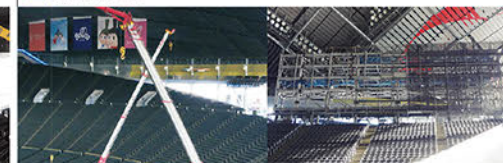
【大型ビジョン更新までの道のり】

■既存設備の解体



2014年11月、外野ライト側の大型ビジョン解体から工事を開始。開業からイベントを支えてきた大型ビジョンはどんどん小さな姿に。

■鉄骨組み立て



12月にはクレーンを使って大型ビジョンの鉄骨の組み立てがスタート。外野レフト側には新設の大型ビジョンの鉄骨が姿を現しました。

■表示パネルの設置



2015年1月、組み立てられた鉄骨に表示パネルを調整しながら取り付け。配線作業後、点灯テストを何度も行い、明るさや色合いも調整。

■試運転



大型ビジョンとサブスコアボードは4階にあるコントロールルームで操作。試運転を繰り返し、ようやくすべての作業を完了しました。